

死刑があれば死刑を求めてしまう・・・

国連決議に注目を

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

私たちは、日本の死刑制度に疑問を持ち、多くの死刑囚が生活している東京拘置所のそばで、死刑について考えてみませんか？ と呼びかけています。

死刑に犯罪を抑止する効果があるのか？ 死刑は犯罪被害者（遺族）の感情を満足させるのか？ 再犯のおそれなどまったくない高齢者や病者に対する死刑執行に何の意味があるのか？ 死刑廃止国も多い中で、なぜ日本では死刑が必要なのか？ えん罪・誤判はないのか？ 死刑囚は日々どんな生活を送っているのか？ 手紙を出せば届くのか？ 返事は出せるのか？ できないのはなぜなのか？

様々な疑問を私たちは持っています。

☆☆☆

それでも、日本には死刑制度があります。殺人や、強盗致死などの罪について死刑が適用されます。

近年、被害者の意向を尊重することを理由として、その最高刑たる死刑判決が躊躇なく乱発されている傾向があります。

10年ばかり前までは年間の死刑判決確定者はせいぜい5人前後で推移していました。それが2004年に15人、2005年に11人、2006年には20人にまで膨れ上がっています。凶悪犯罪が増えたわけではありません。少なくとも、これらの人たちの半分以上は、10年前なら死刑にはならなかったのです。

被害者としては、現にある最高刑を求める気持ちは当然かもしれません。死刑がある以上、極刑たる死刑を求めたくなる気持ちもわからないではありません。

しかし、死刑だ！と叫ぶ人たちの思いの根拠について、冷静に考えてみると、「八つ裂きにしても物足りない」といった報復感情もあれば、「二度と顔を見たくない」といった嫌悪感など、そこには様々な思いが錯綜しています。

☆☆☆

死刑のない国はたくさんあります。それらの国々が日本より治安が安定していて、いわゆる「凶悪犯罪」が少ないわけではありません。逆に、国際的に見れば、日本のような治安の安定している国でなぜ死刑が維持されているのか、と不思議に思われています。

このことは、死刑制度が無ければ無いなりに、犯罪（者）に対して別の対応があることを示していないでしょうか。

☆☆☆

死刑制度に問題があるにしても、直ちに死刑を全廃することには不安がある、という方は多いかもしれません。

今、国連の62回総会において、全世界の死刑の執行停止を求める決議が検討されています。死刑廃止ではなくて、執行の停止であることに注目ください。これは、死刑を直ちに廃止できないとしても、せめて執行は控えるように、というアピールです。まるで、日本の状況を念頭においた決議のようではありませんか。